

「教育実習を振り返って」

[公立高等学校 理科]

私が教育実習を終えてまず初めに感じたこと、それはやはり自分は教員という仕事に強い憧れがあり、この職業に就きたいと心の底から思っている、ということだ。

正直、教育実習に行く前は様々な不安があった。本当に自分は教員に向いているのだろうかという不安や、この実習を終えて、もし教員になりたいという気持ちが変わってしまったらどうしようという不安。その他にも、生徒たちとしっかりとコミュニケーションが取れるかどうか、しっかりと理解できる授業が出来るかどうかなど、不安は尽きなかった。実際に実習へ行くとその不安は更に増していった。

一週目は生徒とも上手くコミュニケーションがとれず、中々話しかけることもできなかった。更に、授業でも様々な困難があった。私は授業に関しては、これまでの模擬授業の経験から多少自信があった。しかし、実際に40人の生徒を前にして授業を行ってみると、上手く授業をすどころか、字を書くこともままならず、自身の実践力の無さを痛感した。授業の準備を怠ったということは決してなかったが、何をどのように話すかという組み立てが自分の中で全くできていなかった。このように、一週目は反省の連続であった。しかし、それゆえに最も多くの学びを得たのもこの一週目の期間であったと振り返っている今はそう感じている。二週目からは今まで以上に授業準備に時間をかけるようになり、およそ理想通りの授業が出来るようになってきた。しかし、授業は個人でやるものではなく、生徒との対話が必須である。だからこそ、全クラス同じ通りに進める授業は良い授業とはいえない。ということに気づいたのが二週目である。この時から、ようやく生徒をしっかりと見る余裕が出来てきた。それに伴って、徐々に授業以外での生徒とのコミュニケーションの場も増えてきた。そして最後の三週目では生徒を見る余裕があり、生徒との対話の中で授業を作り上げていくことが出来た。勿論全てがそうではなかったが、この三週間で大学の模擬授業では決して得られない、確かな実践力を身につけることが出来た。生徒とのコミュニケーションに関しても、最終日には別れを惜しんで涙を流せるほどにいい関係、思い出に残る関係が築けた。そして、教育実習を終えると、初めに私がずっと感じていたような不安感は一切消えており、教員になりたいという強い志と、生徒たちとの思い出が確かに残っていた。

たった三週間の実習であったが、この三週間で私は生徒たちから、そして実習校から沢山の思い出や経験をいただいた。これが一年間であったならば、数十年であったならば、この思い出や経験はもっと輝かしいものになるだろうと、私はそう感じた。だから、私はこの教育実習を終えて、まず感じたことは絶対に教員になりたいという強い気持ちであった。夢をかなえる為に、また生徒たちに会うために、より一層頑張っていきたいと考えている。